

岩手県有機農業連絡協議会・第1回総会 記念シンポジウム

『環境保全型農業から真の環境保全農業へ』

～かたち（型）だけではない、本当のいきいき農業とは～

「環境保全農業」とは、人と自然、人と人との共生を理念とし、生物多様性保全や地球温暖化防止等の環境保全と健全な地域社会の実現に寄与することを目的とし、その手段として、化学農薬や化学肥料を使用しない有機農法、自然農法などによる自然と調和した生産活動です。それは、単に安全安心な食品の生産にとどまることなく、広い意味での有機循環型社会の構築を目指し、真の幸せと平和を求めるものです。

日時：2015年4月5日（日曜日）

13：00開場、13：30開演～16：30終了

場所：アイーナホール

内容：13：30／岩手県有機農業連絡協議会・第1回総会

来賓ご挨拶：達増拓也（岩手県知事）

14：00／記念講演：山本コウタロー

15：20／パネルディスカッション

パネラー：山本コウタロー、加藤善正（岩手県生活協同組合連合会会長理事）、
小島幸喜（大東町有機農産物等生産組合代表）、吉田洋子（子育てママ）
進行：日野雄策（オーガニックフェスタ in いわて事務局長）

16：30／閉会

記念講演：山本コウタロー氏 プロフィール

1948年生。一橋大学卒。「走れコウタロー」「岬めぐり」などのヒット曲を持つフォークシンガー。また日テレ『おもいッきりテレビ』の司会や、ニッポン放送のラジオパーソナリティなどでも活躍。現在は環境問題に詳しいことから白鷗大学教授として教鞭をとるかたわら、西伊豆で『自然な関係ファーム』という不耕起自然農法の農場を運営。食・農・健康・男女共同参画・教育問題・平和問題といった講演活動を全国各知で行っている。また、東日本大震災後は、復興支援のためのライブエイド活動などを行っている。著書『自然な関係』（吉田真由美共著、教育史料出版会）、『燃えよエコトピアン：「本来イズム」宣言なのだ』（晶文社）、『ぼくのエコロジー・ライフ / 迷路さまよう「地球」を救え』（労働旬報社）、『耕せコウタロー』（家の光協会）、他



岩手県有機農業連絡協議会 設立趣旨

◆協議会の設立趣旨

本会は、これまで点在していた岩手県内の有機農法や自然農法を実践する生産者のつながりを深め、環境保全農業への新規参入または移行を希望する生産者の栽培技術のステップアップを図ると共に、環境保全農業の面的拡大と、安全安心な農産物を求める人々とのネットワークを構築し、県内の環境保全と健全な地域社会の実現に寄与するために発足いたします。

◆協議会の考える「環境保全農業」とは

本会の提唱する「環境保全農業」とは、単に化学農薬や化学肥料を減らせばよいというものではなく、人と自然、人と人との共生を理念とし、真に有機的な社会を実現することを目指し、その手段としての環境に負荷を与える化学農薬や化学肥料を使用しない有機農法、自然農法などによる自然と調和した生産活動を言います。

◆協議会発足の背景

近年、環境に配慮した有機農法や自然農法で新規就農を目指す若者の増加や、安心安全な農産物を求める消費者の増加に加え、自然とのふれあいを求める社会的ニーズや、衣食住における自然回帰のムーブメントの中で、自然共生の意識は確実に高まってきています。

そんな中2013年と2014年の秋に開催した「オーガニックフェスタ in いわて」では、多くの人々が「自然と調和したライフスタイル」を求め集いました。そこで「安全な食」「安心な暮らし」「地域のきずな」をキーワードに結ばれた緩やかなネットワークを継承し、人と自然、人と人との共生を理念とした県内の生産者および消費者との連携を確立するために、本会の設立に至りました。

◆2015年3月現在の構成団体

構成団体：岩手有機農業研究会、MOA 自然農法文化事業団岩手県連合会、大東町有機農産物等生産組合、秀明自然農法ネットワーク盛岡、遠野自然栽培研究会、NPO 八幡平地熱活用プロジェクト、みちのく雑穀研究会、ちいさなたね

本会の設立趣旨をご理解いただき、本会の会員としてご登録いただき、更なるネットワークの広がりをご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

岩手県有機農業連絡協議会 事務局 〒020-0822 岩手県盛岡市茶畑 2-11-20
TEL/FAX 019-651-7295 Email gaiaprogram@yahoo.co.jp

岩手県有機農業連絡協議会 会員応募用紙 (年会費 1,000 円)

お名前

※該当する会員にチェックを入れてください

正会員 準会員 サポート会員

ご住所

電話番号／携帯メール

メールアドレス (パソコン)

ご意見ご要望